

グループワーク

本日の研修会の目標

- # 1. 事例を通じて北見地域のがん患者さんご家族向けの**支援における課題**を概説できる
- # 2. がん患者さんの**QOLの向上**と**支援の充実に向けた関わり**の事例を提案できる
- # 3. 地域におけるがん患者さんの支援に向けた**多職種チームアプローチの意義**を説明できる

症例の提示①経過

(ナビゲーター 北見赤十字病院 上林先生)

症例：50歳代、男性、肺がん、肝臓転移、骨転移

・喫煙歴：あり

経過：

- ・X年、背部痛で受診。CTにて肺に肋骨と胸椎に浸潤する腫瘍を認め、精密検査で肺がんと診断。腹部CTで肝臓転移を認めた。
- ・臨床病期はStage IVBにて、抗がん化学療法と局所への放射線療法を併用する治療方針となった。
- ・原発巣に放射線治療を施行。抗がん剤治療を行った。その後、CT検査で転移の増大を認めた。
- ・治療を変更したが、アナフィラキシーが出現し、抗がん剤治療を中止した。
- ・その後、両下肢のしびれが強くなった。

9

グループワークの流れ(80分)

1. 症例の提示：5分 (ナビゲーター 北見赤十字病院 上林先生)
2. グループワーク①：治療の導入と経過について
 - 各職種の立場から見たこの症例の課題や強みについて話し合います。10分
3. グループワーク②：退院支援と在宅支援に向けた連携について
 - 各職種の立場から、支援上の大切にしたい視点や社会資源等の活用について話し合います。45分
4. 各グループの討議発表とコメント20分
 - グループの討議内容(課題や気づきなど)の紹介
 - 討議内容へのコメント

8

症例の提示②経過

(ナビゲーター 北見赤十字病院 上林先生)

X+1年

- ・歩行困難になった。転倒して手をつき、痛みのために腕を動かせなくなった。上腕骨に骨転移、病的骨折を認め入院となった。

入院時の状況

- ・MRIにて胸椎転移を認めた。側胸部にはビリビリとしびれるような痛み、腰には持続する鈍い痛みがあり、かつ体動時に背中から腰にズキとした痛みが出る。痛みの程度は、安静時にはNRS4~5/10、動作時には8~9/10。
- ・ひと晩に数回、寝返りをするたびに痛みで目が覚める。腕を動かすと痛みあり。両下肢の知覚障害は進行し、残尿がある。便秘が辛い。ロキソプロフェンとモルヒネ徐放性製剤80m/日が投与されている。

10

症例の社会的背景

(ナビゲーター 北見赤十字病院 上林先生)

- 職業：会社員
- 家族：妻（キーパーソン）の2人暮らし。
- 親は施設入所中。
- 子供の一人には同じ市内に在住、もう一人は独身で遠方に住んでいる。

入院時点の病状説明と現時点の見通し

(ナビゲーター 北見赤十字病院 上林先生)

- 主治医から、本人と妻へ病名と進行具合、治療経過について説明されている。
- 本人は、これ以上抗がん剤治療は行えないと理解しているが、妻には有効な治療がないことを知らせてほしくないという主治医に伝えている。
- 予後についてはまだ説明されていない。
- 主治医は予後を2～3か月程度と予想している。

入院時点の本人と妻の意向

- 本人は家に帰りたい、もう一度趣味を楽しみたい。
- 家族に会えるのを楽しみにしている。
- 下肢の症状が進行し、排泄も思うようにできなくなったことに不安を訴える。
- 妻はもう少し動けるようになるまで病院において欲しいと思っている。

11

入院後の経過

(ナビゲーター 北見赤十字病院 上林先生)

- 患者の痛みについては、放射線治療と医療用麻薬の増量で対応した。

痛み以外の身体症状

- 両下肢のしびれ
- 膀胱直腸障害（胸椎転移による脊髄圧迫障害）については、動作前のレスキュー薬使用、痛みがでない姿勢や移動の工夫、コルセット、三角巾+バストバンド固定、温罨法などで対応した。

13

12